

木村 誠也

独立行政法人都市再生機構 住宅経営部

卒論テーマ UR 団地のオープンスペース改修に対する居住者評価及び利用実態に関する研究—洋光台の団地再生に着目して—（山崎研究室）

出身高校
横浜市立
戸塚高等学校

好きな「まち」
みなとみらい



無印良品店員として参加した「MUJI x UR」団地のイベント

1

UR 都市機構では「賃貸住宅」「都市再生」「災害復興」という3つの部門を2～3年でジョブローテーションしていきます。私は現在3年目ですが、賃貸住宅部門で「団地修繕に係る予算執行管理」「機構業務のシステム化」の2つの業務を経験しています。URの働き方は多岐にわたり、技術系職員でも設計・積算や工事監理系で働く人もいれば、私のように団地の維持管理や社内システム構築系で働く人もいて、さまざまです。異なる部門・領域で幅広い仕事を経験することで多角的な視点で業務にあたることができ、若いうちから最前線で活躍できるため、日々やりがいを感じながら働いています。

2

私は将来、UR 賃貸部門には欠かせない人材になりたいです。UR 賃貸は今後、建物の老朽化や人口減少、ライフスタイルの変化などたく

さんの課題・変化に対応していく必要があります。そこで必要となるのが「数十年後の社会変化にも対応できる団地づくり」だと考えます。現在は団地維持管理の仕事をしていますが、仕事を行う中で「目先の対処だけになっていないか」「居住者はどう思うか」という視点は常に持ちながら業務にあたるように意識しています。今後は維持管理で得た知見を活かして設計や団地建て替えも経験し、計画から維持管理までこなせるゼネラリストになりたいです。

3

学生時代に経験できて良かったと感じているのは、たくさんのアルバイトを経験できたことです。私は飲食・接客・塾講師・引っ越しなど、さまざまな業種のアルバイトを経験したことで視野を広げることができました。とくに接客業のアルバイトでは、対人力を養うことができました。アルバイトを通して人として成長できただけでなく、

社会人として働いていく中でアルバイトでの経験が実際に役に立っていると感じる場面が多々あります（とくに対人力は大切だと実感しています）。

4

今の私にとって、アルバイトでの経験はかけがえのない経験です。

まずは幅広く業界を見て、興味のある業界を見つけてみてください。興味がないと思っている分野の企業説明やインターンシップに参加することで、気づけることもたくさんあると思います。また、「自分の強み」は何かということ意識して就活に臨んでみてください。机に向かって自己分析を始めても進まないこともあるでしょうから、インターンシップなどを利用すると他の参加者の考えや表現方法を学ぶことができますし、自分の「強み／足りないもの」は何かということと同時に分析することもできます。悩むこともあると思いますが、時には友人や先生方を頼り、納得いく就職活動ができるよう頑張ってください！

1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 後輩に就活へのアドバイスを！

新ブランドアイデンティティとともに

